

さいたま市長 10月定例記者会見

平成17年10月14日（金曜日）

午後1時33分開会

○ 進 行 記者クラブの皆さん、こんにちは。ただいまから定例記者会見を始めさせていただきます。

それでは、幹事社の読売新聞さん、進行方よろしく願いいたします。

○ 読売新聞 10月幹事社の読売新聞と申します。よろしく願いします。今日はありがとうございます。

それでは、まず、市長から発表内容、よろしく願いします。

○ 市 長 皆さんこんにちは。それでは、10月の定例記者会見を始めさせていただきます。

用意をいたしました議題は三つでありまして、まず、1が、さいたま市文化賞受賞者が決定をいたしましたということで、お話をさせていただきます。

さいたま市では、文化芸術又はスポーツの分野において顕著な功績のあった市民又は市にゆかりのあるものに対し、「さいたま市文化賞」を贈ります。

今回は、第2回目の表彰となります。

受賞者は、彫刻家の市村緑郎氏、作家の大谷羊太郎氏、絵本作家でグラフィックデザイナーの杉田豊氏、指揮者の杉山颯司氏、財団法人埼玉県体育協会副会長の長谷川和男氏、財団法人埼玉県サッカー協会副会長の松本暁司氏、6名の方々に決定をいたしました。

表彰式は、平成17年11月の9日水曜日、午前11時からパレスホテル大宮におきまして、市政の振興発展に尽力をされ、その功績が顕著である方々に贈る市政功労賞と併せて行いますので、取材方ひとつよろしくお願いを申し上げます。

それぞれの功績内容につきましては、お手元に配付をしてございます資料のとおりでございます。

それから2番目が、さいたま市商工見本市（コラボさいたま2005）を開催をいたします。

「人、地球にやさしい、さいたま市の企業」をテーマに、ビジネスチャンスの拡大、企業間の交流などを目的に、さいたま市商工見本市「コラボさいたま2005」を、昨年に引き続きまして、さいたまスーパーアリーナで11月の11、12、13、金土日ということになります。3日開催をいたします。

本日は、さいたま市商工見本市「コラボさいたま2005」のチラシをお配りをしてございますので、御覧をいただければと思います。

会場では、「環境ゾーン」「精密機械や先端技術のゾーン」等の出展品目で分類をした五つのゾーニングによるブースに分けて、技術や製品のPRを行っております。

講演やセミナーでは、産学官の連携や、環境、省エネについて熱く語っていただき、ステージでは、人間が乗ることができるロボット「ランドウォーカー」のデモンストレーションを実施いたします。また、展示ホールにおいては、来場者が出展企業による技術講習を体験をすることのできる「ものづくり体験教室」などのイベントを開催いたします。

参加企業は、昨年に比べて44社増加をしております。この見本市も確実に定着をしていると考えております。ぜひ多くの皆さんに最新の技術や製品を御覧をいただき、さいたま市の意欲と技術のある企業に声援を送っていただければと思っております。

議題の3が、「さいたま市平和展」についてということでありまして、さいたま市では、戦争の実態と平和の大切さを後世に伝えていくため、毎年、「さいたま市平和展」を開催しておりますが、今回は11月3日から6日までの4日間、コルソ7階コルソホールで開催いたします。

今年は、終戦60年という節目の年でありまして、また、さいたま市にゆかりのある日本近代漫画の先駆者「北沢楽天」の没後50年にあたる年でもあることから、例年の資料展示に替えて、漫画家や作家などが自身の戦争体験について、「私の八月十五日」をキーワードに、漫画や絵と文字でそれぞれの思いや平和の尊さを訴えた作品「昭和二十年の絵手紙」の展示を行うことといたしました。

このほか、会場では、市内の児童・生徒による「平和図画・ポスターコンクール」の入賞作品の展示やアニメビデオの上映なども行います。

漫画や絵を通じて、子どもから大人までの幅広い層の皆様に「平和」についての関心を深めていただけるものと考えております。

本日チラシをお配りをいたしますので、PRにつきましてもよろしくお願いたします。

議題は以上でございますが、皆様のお手元に、10月30日曜日に開催をする「ドリーム・ベースボール」のチラシをお配りをしておりますので、こちらもひとつ取材方よろしくお願いをいたします。

それで、平和展の作品集が、こういう立派な冊子になっておりまして、中を開けますと、それぞれの作家のこういった作品が載っているというものでございます。これ幾らなんだろう……8,000円もするんだ、高いね。

ちょっと回して、ぱーっところ……。

○ 読売新聞 以上の発表の中で何か質問ある方があったら、よろしくお願いたします。

いいですか。

○ NHK すみません。NHKですが、さいたま市の商工見本市のこのランドウオーカーは、榊原機械という会社はさいたま市と何か関係があったんですか。さいたま市の会社なんですか。

○ 市長 では、担当のほうから。

○ 事務局 群馬県の社員12人の町工場で、環境機械などの設計に携わっている会社でございまして、社長が、南雲正章さんという方がつくられました。環境機械などの設計をされているようでございます。

○ NHK この会社がなぜこれをつくったのかということと、それをなぜここに出展していただいたのかという、その経緯は何かありますでしょうか。

○ 事務局 この方につきましては、昔からこういう機械が好きでですね、ガンダムというキャラクターを思わせるような、ちょっとごつごつしたような機械ですけども、そういったものをつくりたいという希望が、ここで夢が実現したということでした。

それから、ものづくりとですね、そういったものに努力と根性が必要だというようなことから、こつこつと、ものづくりは努力と根性ということから、こつこつと夢を実現に向けられたということでした。

- 市 長 なぜそれを持ってきたのか。
- 事務局 それから、去年はホンダのアシモというのが来ていただいたんですが、今年は、二足歩行ロボットということで、人が乗れるということですね、ひとつ、お客さんにもたくさん来ていただくきっかけにもなろうかということで、新聞等にも掲載されましたので、早速社長さんにお会いしまして交渉いたしました結果、快く引き受けていただいたというのが現状でございます。
- 市 長 皆さんも、いらっしゃると、操縦はできないですけど乗ることはできるそうですから。乗ってみてもおもしろいんじゃないですかね。
- 埼玉新聞 何台来るんですか。
- 事務局 1台です。
- 市 長 世界で1台しかないから。
- 読売新聞 ほかは、いかがでしょうか。
- 朝日新聞 朝日新聞ですけれども、議題の三つとは違って、最後に市長が触れられた、ここに付いているドリーム・ベースボールの件ですが、さいたま市はサッカーのまちということで、サッカーにかなり力を入れてやっていますけれども、今回、この野球のイベントを開催するに当たってですね、その野球のイベントに当たっての市長の思い入れとか、そういうのがありましたらお聞かせいただきたいと思うんですが。
- 市 長 これは宝くじの収益金で、宝くじの協会といいますか、これが全国各地を回っているという中身の野球の試合です。
- 御承知のように、旧の、旧のというか今でもありますけど、大宮球場ね、これは昔からかなり伝説的な球場で、昔、長嶋が高校生のときにそこでホームランを打ったとか、そんな話もありまして、旧の大宮ではやっぱりかなり野球がずっと盛んでした。そういった意味合いでも、また野球もひとつ頑張ってもらおうと。今ちょっと人気は衰えているものだから、しっかりやってほしいなという意味も込めて、これはお招きしたということです。
- 多分、まだ対戦相手がよく決まっていませんけれども、さいたま市役所の野球クラブとか、そういうふうな、ノンプロでも、ホンダとか日通とか、ああいうのじゃ、もうちょっと、弱いと言うとおかしいけど、もうちょっと草野球チームじゃないと、かなり高齢者ですから、こちらはですね、ホ

ンダ、日通が行ったんじゃ、一方的に勝っちゃっちゃまずいなというのもあって、そういうクラスの試合を楽しんでもらうということです。

○ 読売新聞

よろしいですか……。

では、幹事社質問のほうに移らせてもらいます。

幹事社質問は三つありまして、一つは、「ウォームビズ」への取り組みについて。

この夏は、「クールビズ」ということで、ノーネクタイで室温28度という取り組みをしたわけですが、国のほうが今度は「ウォームビズ」で、室温を落としてあったかい格好で過ごそうということですけども、それに対しての、さいたま市としてはどう考えているのか、教えてください。

もう1点は、18日から市長がアメリカのほうに海外訪問する予定らしいんですが、友好都市なのでそういう、友好を深めに行くというのがメインになるんでしょうけれども、先日、上田知事がアメリカへ行ったときは、営業、企業誘致の営業も兼ねて行ったんですが、そのへんの、ほかの友好以外の目的もあつたら教えてください。

もう一つ、三位一体改革の焦点となっている義務教育費国庫負担について、先日、中教審が、現状のままでということなんですが、当然、地方六団体の意見とは全く逆になるんですけども、それに対しての市長の感想というか、お考えをお願いします。

以上です。

○ 市長

まず、「ウォームビズ」への取り組みということですが、さいたま市では、本年実施をしました夏のライフスタイル実践の設定温度28度、ノーネクタイ・ノー上着につきましては、市民、また、事業者の皆さんからもおおむね御理解をいただきまして、実践をいたしました職員からも好評であるという、かなり成果を上げたのではないかなというふうに思っております。

昔、羽田総理がね、半袖の背広を着てネクタイ締めて、変な格好していましたが、あの人まだやってるのね。あの人、まだ半袖の背広着て、かなりしつこいね。

昨日、小池環境大臣のところに、花粉症、これ八都庁市の話なんですけどね、花粉症の予防というふうなことで、これはものすごく範囲が広い、

環境もそうだし、それから山林そのものが今、高齢化、それから、そういう中で、山というのはやっぱり手入れをして、下刈りをして、それで木を植えてというふうに手入れをしないと駄目になってしまうんですね。今、秩父のほうの山でも、入ってみると、もう死屍累々というか、そういうふうなこともある。それから、杉の木そのものを今、あまり花粉が出ない杉に植え替えているとか、いろいろなことがあるんですけども、各いろいろな省庁にまたがるものだから内閣で取り組んでくれないかというふうなことで、八都県市の代表ということで、今、上田知事が八都県市の座長の役割ですので、上田知事と、花粉症の言い出しっぺの石原都知事と、それと私と3人で昨日行って、そんな話をしてみました。

そのときやっぱり「ウォームビズ」の話がですね、ちょっと出ました。環境大臣のいる部屋に行く、ずーっとこのクールビズの写真が載って、ずっと置いてあって、見ると、単にネクタイ取っただけだなというのもずいぶんありましたけれども、今度は「ウォームビズ」ということです。

二酸化炭素の削減効果ということをおねらっていることが一つですが、同じ1度でも、夏より冬のほうがその効果が大きいというふうに言われています。暖房温度の20℃の設定や省エネの取組み推進を柱として、今後、カーディガン、こういったものですかをあわせて着るなど、寒い季節のライフスタイルにふさわしい取組みを広く推進をするため、市民、事業者にも協力依頼を行うとともに、市オリジナルのポスターを作成し配布するなど、周知を図ってまいりたいと考えております。

また、今度開催される八都県市首脳会議、これにおきましても、冬のライフスタイルの実践ということで、首都圏全体で取り組むという動きがございまして、事務レベルで今、呼びかけがなされているところであります。次の八都県市首脳会議で、多分合意に達するのではないかなというふうに思っております。

いずれにしても、今までの暖房というのはちょっと過剰だということは皆さん御承知のとおりでして、特にデパートなんかへ行きますと、店員さんが半袖で物を売っていて、そこに我々が背広を着て行ったら、これは暑くて大汗かくのは当たり前ですから。そういったところからもね、やっぱり、直していくというのは当然のことではないかなというふうに思ってい

ます。

それから、2番目の海外訪問ですが、18日からアメリカのリッチモンドの姉妹都市提携、これはちょうど10周年という記念を兼ねまして、市民、また経済関係者とリッチモンド市への訪問を行ってまいります。

現地におきましては、一つとして、市長表敬訪問等の公式行事、二つ目として、日系企業を訪問して、海外企業としてアメリカに誘致された条件等や進出時の状況及び雇用関係の問題点等を視察をしてまいりたいというふうに思っています。

リッチモンドに、インスタントラーメンのマルちゃん、この現地法人がありまして、北部アメリカの……南部ですか、あそこは。南部のほうの生産拠点で、だいたいそこでおくっておりますけれども、そういうところを見てまいりたい。

それから、地元の経済界、グレーター・リッチモンド・パートナーシップというのが、そういう組織があるんですが、これはグレーター・リッチモンド・パートナーシップというのは、半官半民の、リッチモンドにおける企業誘致や企業の事業拡大等を目的に1994年に創設をされた組織ですけれども、このような方々との交流する機会を設けまして、企業誘致に向けたビジネス情報の交換をしてまいりたいというふうに思っています。

また、ボストンにおきましては、ボストン再開発公社を視察して、ウォーターフロントの大規模再開発の状況、また、岩槻地域を念頭におきまして、再開発に伴う歴史的資産の保存と経済の活性化を調和させた先進事例等を視察をしてまいりたいというふうに思っています。

このたびは特に、姉妹都市間での経済交流の可能性や大都市における再開発のモデル事業の組織を研修をさせるということで、環境経済局と都市局の職員を同行するということにいたしております。

お尋ねの、企業誘致のトップセールスはやるのかという話ですけれども、企業誘致というのは、やっぱりいろいろ段階がありまして、いきなり行って、じゃ、明日からやろうというわけにもいきませんので、下ごしらえの段階、いろいろ段階がありますが、また必要に応じて当然トップセールスも図ってまいりたいというふうに思っています。

御承知のとおり、今、さいたま市も産業創造財団をつくったり産業展開

推進室をつくったりして企業誘致をやっておりますが、先だっても記事に
していただきましたけれども、さいたま新都心にクラリオン、これが移っ
てくるということになっておりまして、産業展開推進室で3年間で30社
という目標を掲げておりますけれども、出だしはなかなか順調なのかなと
いうふうに思っています。

それから、三つ目が 義務教育費の国庫負担金の問題ということで、中
教審が、義務教育国庫負担金について制度堅持という最終答申をまとめる
という記事が出ておりました。

この三位一体の改革の焦点となっている義務教育費国庫負担金につつま
しては、制度を廃止をして、その所要額全額について税源移譲による財源
措置を講ずると。これは地方六団体の主張と全く同じですけれども、これ
が私の考え方であります。

したがいまして、国庫負担制度の堅持とする答申につつましては、三位
一体の地方分権の流れを妨げるもので、受け入れることはできないだろう
というふうに考えています。

義務教育費国庫負担制度については、地方が創意と工夫に満ちた教育行
政を展開することによりまして教育水準の向上を図るために、これを廃止
して税源移譲するべきであろうというふうに思っております。

廃止することによって地方の自由度を拡大をして、給与負担と任命権の
一致による一元的な責任体制、これがとれるだろうということで、学校ご
との特色ある教員配置などの教育行政を展開することを可能にし、また、
学級編制及び教職員定数にかかわる権限等、道府県の諸権限を政令指定都
市に移譲することによりまして、真の地方分権社会に近づくものという
ふうに考えています。

そのために、繰り返しになりますけれども、この義務教育費の国庫負担
金は、その所要額全額について税源移譲による財源措置を講じるよう、国
に対して要望しているということでもあります。

そういった流れの中で、小泉首相のほうからは、三位一体改革を実現す
るために地方の意見を真摯に受けとめて対応してほしいという発言があっ
たという報道をされておりました、今までの流れの中で、首相としてはや
はり、地方分権を推進したいという大きな流れの中で考えてほしいという

ことをおっしゃっておられるようであります。

つきまして、この中央教育審議会の最終答申で、首相の発言を尊重した答申がなされることを強く希望しているという段階でございます。

とりあえず以上です。

- 読売新聞 ウォームビズについてですが、クールビズのときは八都県市で取り組むとして、スタートというか期間は各自治体ばらばらだったんですけれども、ウォームビズは、ちなみに、さいたま市としてはいつからいつぐらいを……。
- 市長 八都県市が今度、いつだっけな……じゃ、そちらのほうで。
- 事務局 八都県市足並みそろえてと考えているんですけれども、一応、立冬が11月7日ですので、立冬から春分の日3月21日まで、暖房を使用する期間ということで足並みをそろえていこうというふうに考えております。
- 読売新聞 じゃ、この期間で調整中と……。
- 事務局 そうです。
- 市長 事務方で調整してはいますが、大体それで落ちつくんじゃないですか。
。ただ、クールビズもね、中央官庁は6月の初めから9月いっぱいだったと。多少ずれてはありますがね、6、7、8、9と4か月だから、1年の内の3分の1クールビズですよ。期間的にも長いから、かなりの効果があったんじゃないかなと思っていますけど。
- 読売新聞 冬の室温20℃というのは、今まではもっとあったかかったんですか。
- 市長 24～25℃ぐらいあったんじゃないですか。普通の執務室で。
ただ、こういう建物の構造やなんかで、常に一定の温度じゃありませんので、アバウトな話だけど、24～25℃ぐらいだったと思いますね。
- 読売新聞 それでは、各社、関連質問やその他の質問があったらよろしく願いします。
- 読売新聞 よろしいですか。読売です。
議題とはそれですけれども、サッカーの話ですが、大宮アルディージャがちょっとまずい位置にいると思います。あと残り8試合ありますけれども、ちょっと、厳しい相手が多いので、もし、降格するかどうかというの

は12月時点で決まると思いますけれども、降格ということになった場合に、大宮サッカー場の改修は、これはどうなるのでしょうか。

○ 市長 予定どおりやります、これは。

○ 読売新聞 予定どおり。これは降格してもという……。

○ 市長 ええ。また上がりますから。

また上がるのよね、プロサッカーもさることながら、高校サッカーのメッカにしたいんだよね。高校サッカーというのは、ついこのあいだもアンダーエイティーンが高円宮杯、これは埼玉スタジアム2002であって、僕も今度、県のサッカー協会の会長ということで仰せつかったんでね、そういったところも顔出しに行くということで行ったんですけども、やっぱり、レッズユースとか浦和東高校あたりが残ればよかったんですけど、準決で負けちゃったものだから、やっぱり、そうだな、1,200~1,300人ですかね、観客が。だから、ある意味では、高校サッカーぐらいだとあの宮球場ぐらいがちょうどいい、今度1万5,000人になりますけど、ちょうどいい。すぐ目の前で見られるからね。

西が丘とかあいのうのが今、結構使われていますけれども、球場としてはアクセスもそんなにいいわけじゃないし、こうからそういった意味で高校サッカーのメッカにもできればいいなという、そういう思いもあって、これは予定どおりやろうと。

今日、これから中村社長がみえるんですよ。だから、しっかりやれと、しっかりやらないと駄目だということは申し上げようと思っているんですけどね。

○ 読売新聞 後援会長として……。

○ 市長 そうなんです。後援会長として。

○ 読売新聞 当初、J1に上がった、シーズン前ですけども、やっぱり、上がって、球場も改修すると。なのにワンシーズンでまた戻ってこられちゃ、ちょっと格好つかないよという話をされてましたけれども……。

○ 市長 それはそうだよ。あそこがさ、アルディージャのポスターが「ONE WAY」になってるんだよね。戻らないぞと、こういうことなんだけど、J2に行ってONE WAYじゃ困るから、これはもうよくよく、しっかりやれと言うしかないですよ。自分でピッチに立てるわけじゃな

いし。僕なんか立ったら全く穴だらけになっちゃうからどうしようもないけど。

○ 埼玉新聞 埼玉新聞なんですけど、企業誘致のお話なんですけど、7月に推進室を立ち上げてから3か月で4社という実績、発表ありましたけれども、出だし好調という先ほどお話ありましたが、誘致に当たって、何か、例えばこういうような苦労があったとか、このへんが課題として今後ありそうかどうかという、市長のお考えはいかがでしょうか。

○ 市長 そうですね、またこれは担当のほうから詳しくあれしますけど、インセンティブをどうするかということですね、一つは。それを、どういう条件を出して企業に来てもらうかということが、まず第1点、決めなきゃいけなかった最初の部分ですね。

それから、いわゆる工業団地みたいところにメーカーを呼ぶという発想ではありませんので、IT関係だとか精密医療だとか、そういうようなあれなんで、少し分野が限られている部分もありますので、そのへんのフィットする企業に声をかけるというのがなかなか難しいのかなという感じがしています。

だれか担当来てるか？ はい、じゃ、そっちから。

○ 事務局 今、市長が申しあげましたように、あと、一番のやはり、なかなか、市内に呼んでこようとするときには、先ほど話がありましたように、用地が、広い広大な用地を持っているわけではないので、そういった事業者さんにおこたえできるような物件、民間等の情報をフィットさせながら情報を出すというのが、今、苦労しているところでございます。

○ 埼玉新聞 あと、関連してなんですけど、3か月で4社、やっぱり推進室ができれば、発足していなければ誘致できなかったなというふうにお考えでしょうか、いかがでしょうか。

○ 市長 じゃ、そのへんの苦労話を……。

○ 事務局 私ども、経済政策課の中に展開推進室がございますけれども、これまで、推進室ができる前もですね、こういったお話が県さんからあったりですね、同行訪問なんかをしていたわけですけども、やはりちょっと、うまく、情報のつかみ方とかで苦労していましたので、推進室ができてから専任の職員がいろいろな関係機関と接触したりするような機会がふえま

したし、企業さんにも情報とかお話を聞く機会も多くなりましたので、そういうところで、やはり専門の組織ができて弾みがついたのかと思っております。

- 市長 企業がね、今まで、行きたいなと思っても、どこに相談していいかわからない部分があったわけですよね。だから、例えば土地で言えば、それじゃ都市局に相談してみようかとか、そういう話になっちゃうわけなんだけれども、それが、窓口はここですよということが明示されたものですから、企業さんのほうからの相談もやりやすくなったというのが一つの大きな特徴ではないでしょうか。
- 埼玉新聞 今回、この実績の4件に関しては、書簡等では市長のお名前を入れて書簡を送られたとかというお話はあったようなんですけれども、市長みずから訪問されるとかということは、特にはなかったというふうにお聞きしたんですけれども……。
- 市長 まだ行ってないですね。
- 埼玉新聞 今後、状況によったら……。
- 市長 行きますよ、もちろん。
- 埼玉新聞 はい。
- 市長 クラリオンも、行こうかなと思ったら向こうから来てくれちゃった。昨日ですね、知事さんのところへ行って、それからこっちにも来てくれてと。こんなふうに、泉社長さんがみずから来ていただいちゃったものですから。必要があればすぐにでも飛んで行きますけどね。
- NHK NHKなんですけれども、先ほどの三位一体の義務教育国庫負担金の関連で、ちょっと仮定の話で恐縮なんですけど、地方に税源を移譲してもらおうと、特色ある学校づくりというようなお話なんですけど、仮にもし、ちょっと本当に仮にで恐縮なんですけど、税源移譲された場合、市長として、さいたま市の教育、何かこういう特色を持たせたいみたいなデザインというのは……。
- 市長 もう既に教育特区のほうで、例の英語の学習ですとか、それから対人関係のことでやっておりますけれども、そういったものをさらに発展させていけるだろうなという思いですね。
- それと、今、少人数学級がいいのか、それから少人数指導がいいのかと

か、いろんなことを言われていますけれども、そういったこともかなりフレキシブルに対応できるのかなと。

やっぱり、少人数学級というのも、知識を教えるということでは、かなり効果あるんだろうなと思っていますけれども、ただ、例えば野球やるとか、それこそサッカーやるとか、女子のバレーやるとか、そういうときに人数が足りなくなっちゃうね。あんまり少ないと。30人学級だと、例えば男の子15人で女の子15人だと、そういった球技やなんかができなくなっちゃうんですね。そういうふうなひとつの弊害も出てきちゃうものだから、そのへんをどう取り扱うかというのがひとつ問題だろうと思っていますね。

そうしないと、なかなか、コンピューターかなんかいじくりながらチョコチョコやってるのはいいんでしょうけれども、やっぱり今、体力が衰えているって、ずいぶん、このあいだも記事になってましたけど、外へ出て遊ぶというのはある程度人数がいらないとおもしろくないんですよね。そういうこともあるのかなと。

教育委員会、だれか来てますか……そのへんちょっと。

○ 事務局

今の制度ですと、給与制度、国が2分の1、県が2分の1という制度と、それから教職員の定数も県が定めます。給与条件、勤務条件もすべて県が定めています。ですから、私どもは、そういう給与面と権限をさいたま市のほうに移管していただいて、市の独自のほうで職員の採用、それから勤務条件、そういった教育の実態、少人数制度、少人数対応学級、いろんな問題について自由なフレキシブルな対応を図っていきたくと。そのために、権限移譲、それから財源移譲、そういったものを要望しております。

○ 読売新聞

特別秘書についてなんですけれども、議会のほうで、検討している会派もあるわけなんですけれども、市長として、何を目的にというか、その設置する理由というのはどういうことなんでしょうか。

○ 市長

このあいだというか……副市長制度というのが出たじゃないですか。いわゆる助役とか収入役を廃止しちゃって、副市長にして権限移譲をもっとして、それで合議制でやるべきだというふうな、地方制度調査会の答申があったというような記事になってましたけど、実は既にさいたま市、

それをやっているわけですね。経営戦略会議というのはまさにそれで、助役が今3人いるわけですが、それぞれがそれぞれの分野をきちっと担当してもらっている。それぞれ専門的な立場でやってもらうという。それを市としてどうするかということについては、都市経営戦略会議というのを随時開いて、で、市としての意思決定をしていくと。

そういうことの中で、それじゃ、政務的なことは誰がやっているのか。いないんですよ。すべて政務的なことは市長1人だけと。こういうことになっているものですから、今度、国会議員もだいぶふえましたし、国とのいろんなこと、それから、議会との調整だとか、それからいろんなプロジェクト、例えば今、地下鉄7号線だとかそういうふうなのがありますけれども、そういうのは、いわゆる行政の組織で対応ももちろんするんですけども、それ以前に、こういうことになるとかなり政治的なことというか、そういう部分というのが多くなりますから、そういうところの根回しだとか、そういうことをやらせたらいいだろうというふうに私は思っています。

担当業務としては、やっぱり、今申しあげましたように市議会との連絡調整とか、国会議員や県議会議員との連絡調整、特に大型プロジェクトですね、今申しあげた大型プロジェクト、それから、各種団体や政党、それから後援会との連絡調整、政務関連行事への出席と。

政務関連行事、例えば、市議員さんが市政報告会開くとか、そういうときに、助役さんは特別職ですから、出てもらってもそれは一向、制度的にはさしつかえないんですけども、まあ、今申しあげたようにそれぞれが専門分野担当してもらってますから、幅広く全般的な市の行政というものについて語るというわけにもなかなか、いかんと。今までの流れの中では、助役さんがそういうところへ出ていくというのは、あんまり、ちょっと違和感があるというようなこともあって、そのへんの担当をしてもらえたらなという思いですね。

- 読売新聞 人数としては、何人……。
- 市長 1人でしょう、これは。
- 読売新聞 例えば、ほかの、設置している都道府県なんかの例だと、職員から持ってきたりしているところもある……。
- 市長 職員は、特別職の場合は、職員は退職して、それでなるという話で

すけれども……。

- 読売新聞 ええ、退職して……あと、OBを……。
- 市長 僕が今発想しているのは、そうじゃなく、民間の経済人。やっぱりそういう角度からものを見ないといかないのではないかと。今申し上げた都市経営戦略会議なんか、まさに民間手法ですよ。で、それがいいいいというのは地方制度調査会が言ってるけど、さいたま市の場合、今度の選挙のマニフェストというか、公約でも申し上げたけれども、早速つくりましますよということで、今もう、約20回開いてますから。かなり、煩雑にね、1回やると3時間ぐらいやってますから、けっこう長々と……。
- 読売新聞 市長の想定の中では、例えばその特別秘書というのは、経営戦略会議にも入るような……。
- 市長 場合によってはね。場合によっては。
- 読売新聞 政策判断にも関わる……。
- 市長 いや、そういうのは、傍聴、オブザーバーですよ。政策判断はやっぱり市のラインですよ、これは。
それを広報するというか、もちろん、報道監はじめ、各いろんな、広報課もあるわけですからけれども、そういったのは、みんな事実を伝えるだけで、いわゆる政治的なニュアンス的なものというのは全然伝わらないからね。そういうのも必要なのかなというふうに思ってますけどね。
- 読売新聞 民間人からというのは、例えば市長の後援会から……。
- 市長 それはまだ……。
- 読売新聞 例えば後援会以外の方で後援会対策というのは、できるものなんですか。
- 市長 さあ、わからないね。
- 東京新聞 いつぐらいまでの時期にという希望はありますか。
- 市長 12月議会で上程したいなと思ってますけど。
- 読売新聞 例えば、去年、特別職の給与を上げるときに、共産党を中心にいろいろ反対があったんですけれども、新たに要するに特別職をもう1人ということになると、また同じような反発が出るんじゃないかなと思うんですけれども。
- 市長 条例事項だからね。議会が条例通ればさ、それはそれということで

すよ。

- 読売新聞 給与なんかも、年間いくらぐらいとか考えているんですか。
- 市長 報酬だから、自由に……自由にというか、裁量の範囲内ですよ。そんなにね、ばかばかしく高いことは考えてないけどね。
- 読売新聞 最後。海外訪問で一番楽しみにしていることは何ですか。
- 市長 リッチモンドもそうだけれども、グラウンドゼロ。グラウンドゼロもちょっと寄りますので、できれば花束でも捧げてきたいなと思ってます。今やっぱり、テロリズムの脅威にさらされているし、今度危機管理室なんかも、危機管理監というのも職制上つくりましたけど、もちろん、普段のいろんな組織のネットワークとか情報ネットワークとか、それと同時に、いざというときの命令系統がきちんとしてないとうしようもないという部分でのことです。そういう危機管理をほんとに身近に感じる、なんていうか、出発点になったような場所ですから。

もちろん、リッチモンドのほうでは、さっきの話のように、いろんな経済的なミッションも組んでますから。今、産業のほうのね、産業展開推進室だとか、さっき言ったようなものというのは、前回リッチモンドへ行ったとき、インキュベーションセンターというのがあったんですよ。インキュベーションセンターだから、孵化させるという意味ですけれども、企業をそこに入れて、成長してもらおうと。

そのときにね、いかにもアメリカだなと思ったのは、そのインキュベーションセンターに入れるのは外国籍の企業だけなのね。アメリカ籍の企業は駄目だと。これはね、やっぱりアメリカという国がまさに全世界に目を向けているなという、そういう、ちょっとショックを僕は受けたんですね。

それで、帰ってきて、早速そういうのをやろうっていうんで、それが今結実しているのが、今のいわゆるいろんな経済政策がね、そのへんから出発しているということもありますので、やっぱり、そういう意味で、きちんと学んでくるというのが非常に大事じゃないかなと思いますね。

やっぱり日本の中にいたんじゃ、あの発想はちょっとないやね。外国企業しか駄目っていうんだから、これはちょっと、びっくりしました。

- 読売新聞 そのほか、いかがでしょうか……いいですか。
ありがとうございました。

○ 市 長 どうもありがとうございました。

○ 進 行 これで、定例記者会見を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

午後 2 時 1 8 分閉会